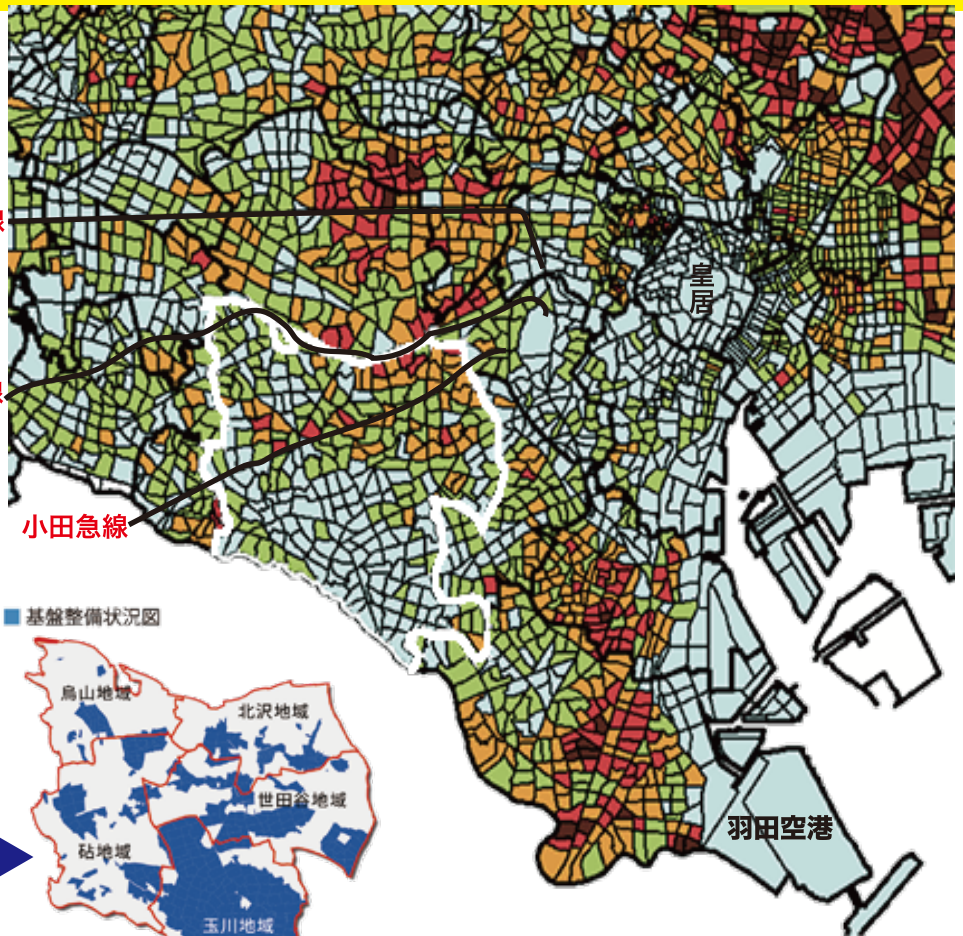


想定される首都直下の被害想定

●右図は 2023 年に公開された東京都の『地震に関する地域危険度測定調査』に載っている総合危険度の図表である●世田谷区の周辺も含めて、**白い線内がほぼ世田谷区**である●地震とは首都直下のことであり、総合危険度とは火災危険度と倒壊危険度を合わせたポイントで示し、**赤い部分が危険度マップ**である●



災害対策は基盤整備

●この図は都内の丁目ごとに色分けされていて、区切られた小さなマス目には数百軒から数千軒の家が含まれることに注意●中心部の薄いブルーは砧公園や駒沢公園等、住宅のない地域がある●また世田谷区の周りは、羽田方向や杉並方向に大きな火災地帯が予測されている●ただし、世田谷区の基盤整備状況（平成 26 年道作りプラン）とほぼ一致している●災害に強いまちづくりとは、都市基盤、道作りであることが反映されている●

■ 基盤整備状況図



※この新聞は予算議会が 3 月から始まるため、2 月末の時点で作成しています。

災害対策は基盤整備

●東日本大震災の前、専門家に聞いた話がある●それは地方で地震があった場合、被災者 1 人につき 4 人の支援者が現れるが、首都直下の場合、逆に 4 人の被災者に対して、支援者は 1 人だということである●つまり自助で乗り切らなくてはならない●で、最初は「道路啓開」（道路を通行できるようにすること）だろう●次に動かなくなった被害者の移送と続く●**地区会館**がその収容場所だ●土木部が担当だが手が回らないだろう●その後に災害ごみの搬出という順番になる●それにしても保坂区長は、地震なんて来ない前提で行政をやっているとしか思えない●来たらお得意の

4

「国が悪い」論法か？

あとながき

●能登半島地震の問題は道路がつかないことである●世田谷区も同様、細い道路で家が倒壊すれば道路は途絶える●左記の専門家によれば大揺れの時、家は空いている空間の方に倒れるという●つまり面している道路側に倒れる●保坂区長は「道路整備方針」を「せたがや道づくりプラン」と名を変えて、目先のイメージ作りに執心だが●区長としては「道路整備」などしていない、道づくりということだろうか●今回、1 ページと 2 ページの一番下のイラストに描かせてもらったのは、58 年間、

ある主要生活道路に反対されている 1 軒のことである●保坂区長は部下に命じて、立ち退きをさせようとしている●それでも応じようとしない●当たり前である●この 10 年間保坂区長はその 1 軒に挨拶すら訪れていない●厄介な交渉にかかわりたくない●自分の口から「立ち退き」の話はしたくない●立ち退けば 1 日 3 千台の南北交通となり、交通不便地域でのバスも可能という●保坂区長の自分のイメージアップに繋がらない対面はしない、そんな姿勢が、残った 1 軒の心を固くさせているのだ。

おおば正明（大庭正明） **略歴** ① 昭和 62 年「世田谷行革 110 番」から組織なし、カネなし選挙で、最下位で初当選（次点と 14 票差）② 以後連続 10 期、政党所属暦なし、一貫して無所属 ③ 「福祉の財源は行革から」を政治信条 ※保坂区長の行革とは全く違います！ ④ ■成蹊大経済卒 67 歳【家族】妻と二人暮らし祖師谷、北烏山を経て粕谷在住。